

予報期間 12月23日から12月29日まで

◆今期間のポイント

<主要じょう乱の概要>

- 25日は、冬型の気圧配置は一時的に緩む。大陸の高気圧の一部が移動性高気圧に転じて日本の南を東進し、低気圧が沿海州から日本海北部を北東へ進む。
- 26日は、低気圧がオホーツク海付近に進み低気圧からのびる前線が本州付近を通過し、次第に冬型の気圧配置に変わる。
- 27日は、日本付近で冬型の気圧配置が強まる。
- 28日から29日にかけて、大陸の高気圧が東シナ海から日本の南に張り出してくるため、西日本から冬型の気圧配置は緩む。一方で、北日本では等圧線の間隔が狭く、冬型の気圧配置が続く。

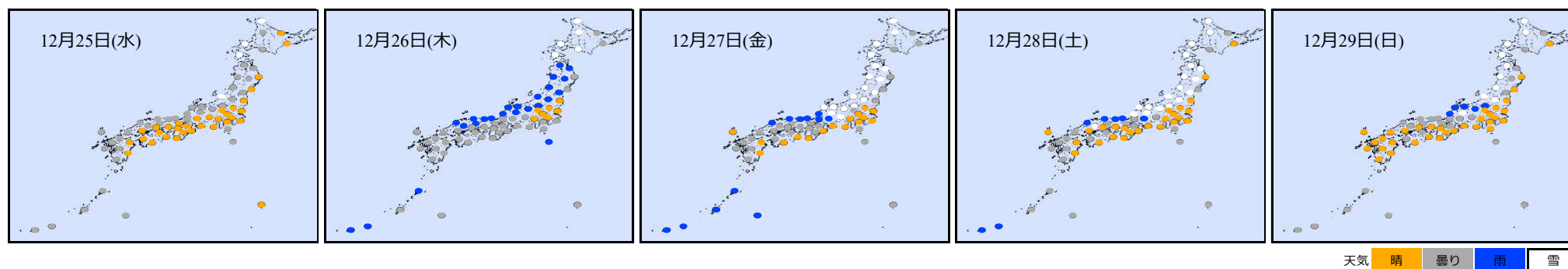
<防災事項> 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 26日から27日頃にかけて、強い寒気が流れ込み日本付近は冬型の気圧配置が強まる。北日本から東日本にかけての日本海側を中心に大荒れや大しけとなり、総降雪量が多くなるおそれがあり、寒気の程度によっては警報級の大雪となる所もある。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

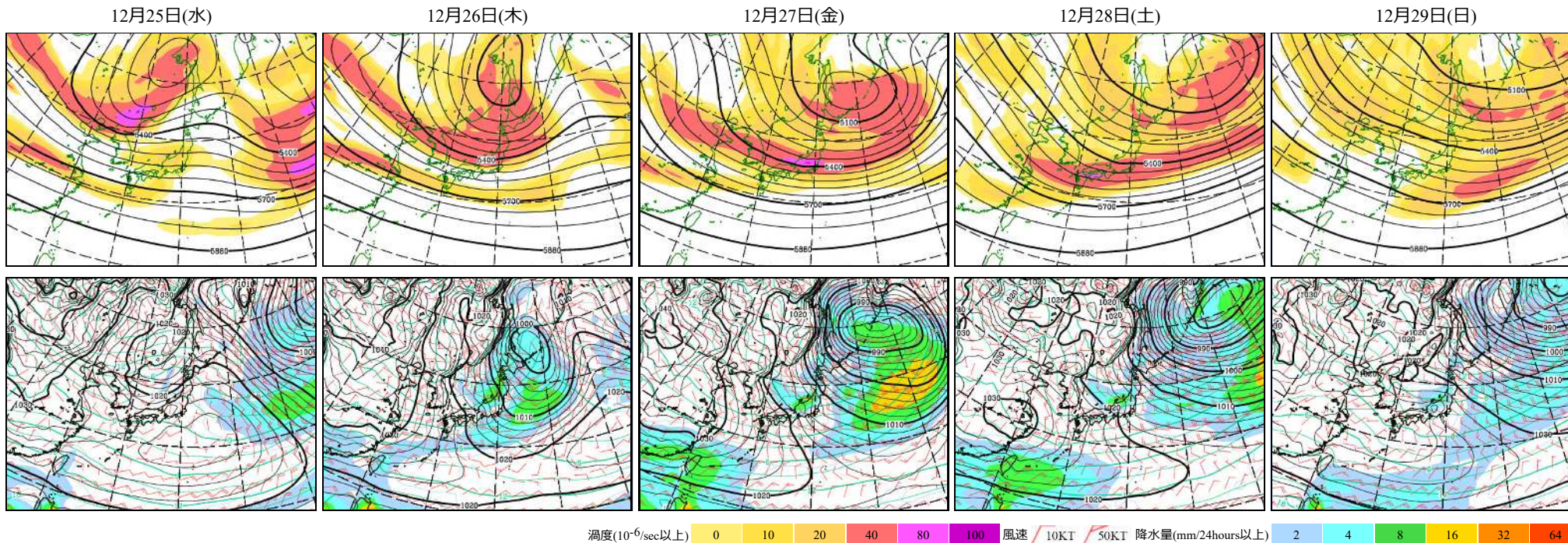
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

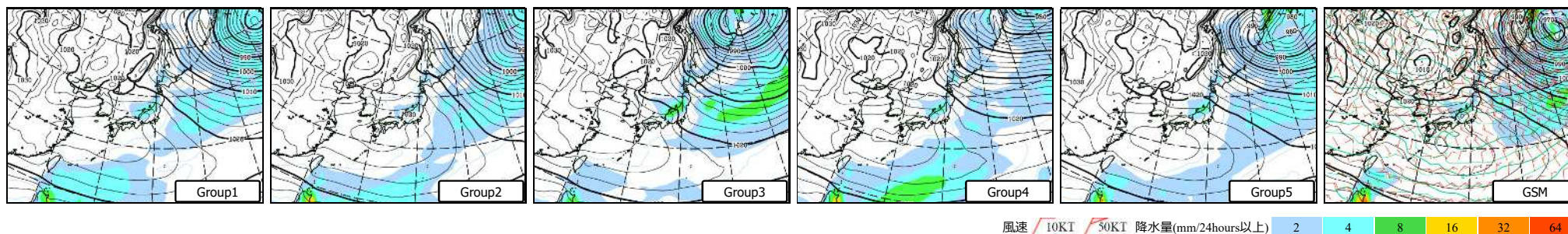


- 北日本と東日本から西日本にかけての日本海側は、曇りや雪または雨の降る所が多い。
- 東日本から西日本の太平洋側は、晴れまたは曇りとなる。
- 沖縄・奄美は、曇りや雨の降る日が多いが、29日は晴れ間が出る所もある。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆12月29日のENSクラスター平均(グループ1~5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、25日から26日にかけて日本付近を通過する前線の東進が早まった。また、28日から29日にかけて日本付近を通過するトラフは浅くなり、緩やかなリッジが日本付近を覆う予想となった。この影響で、大陸の高気圧の日本付近への張り出しが強まり、前日資料よりも西日本付近を覆う予想となった。
- スプレッドは、比較的小さく特定高度線のばらつきも比較的小さい。
- ガイダンスの昨日資料からの変化も比較的小さいが、26日は西日本を中心に降水確率が低くなった所が多い。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、最新のENSを基に考える。